

西脇市消費生活センター

☎22-3111 (防災安全課内)

No.190

ネット通販の落とし穴！定期購入に注意

◆相談事例①

「いつでも解約できる」という広告を見て、安心してサービスを申し込んだが、何度電話を掛けてもつながらず、解約できない。ウェブでしか解約できない、指定期間内しか解約できないなど、解約の条件や方法が複雑。

◆相談事例②

動画投稿サイトやSNSなどで、「痩せる」「お試し100円」という広告を見て商品を購入。しかし、突然2回目の商品が高額な請求書とともに届いた。商品は5回の定期購入が条件で、数万円の支払いが必要だと言われた。

◆アドバイス

通信販売に「クーリング・オフ制度」はありません。解約・返品は販売業者が決めた規定に従うこととなります。そのため、業者には取引条件や業者の情報を表示する義務があります。購入前には必ずサイトの最下部やメニューなどにある「特定商取引法(特商法)に基づく表示」「会社概要」などで情報を確認しましょう。また、広告画面や申し込み画面などはスクリーンショットを撮って、契約内容を保存しておきましょう。

あぐりコラム 28

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線 2031)



毎日色とりどりの花が並びます

花のある暮らしを～夏の切り花～

今年、北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」はオープンから10周年を迎えました。今の季節はキュウリやナス、トマトなど多くの夏野菜が売りに並んでいます。野菜売り場の主役が「夏野菜」なら、花売り場の主役は色とりどりの「切り花」でしょうか。

夏の時期には暑くても長持ちする花が好まれます。例えば、「キク」は昔から日本人に親しまれ、最も仏花に使われる花です。長い期間きれいな姿を見せてくれ、枯れた後も散りにくく周囲を汚しません。「スターチス」は花色の種類が豊富で、花の水分が少ないことから暑さに負けない花として知られています。一方、「トルコキキョウ」は暑さに強いだけでなく、淡い緑やピンクの花を添えると、明るく上品な印象に。「ケイトウ」は鮮やかな色と、他の花にはない特徴的な形が目を引き、長い間きれいな色を楽しむことができる花です。

旬菜館に取りそろえる、夏の暑さに強い季節の花で自宅を彩りませんか。



▲茶道協会の皆さんから茶道の所作を学ぶ子どもたち

好きです！にしわきわたしのふるさと

心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

地域の皆さんが講師に 放課後子ども教室—茶道教室

市教育委員会では、小学生を対象に放課後や週末などに安全・安心な子どもたちの活動拠点(居場所)を設ける取り組みを行っています。地域の方の協力を得て、子どもたちの交流活動の場を設けることで、子どもたちが地域社会の中で心豊かに健康やかに育む環境づくりを推進しています。

「伝統文化を伝承・体験する」 「茶道教室」

西脇市茶道協会協力のもと、小学3～6年生を対象に「茶道教室」を開催しています。教室では、茶道の作法や所作をはじめとする「おもてなしの心」のほか、お辞儀や和室への入室の仕方、畳のへりを踏まないなどの伝統的なしきたりも学ぶことができます。今年度の茶道教室には、35人が参加。毎月、総合市民センターで稽古し、歴史ある旧来住家住宅でも活動しています。

地域行事で成果を披露

秋にあるテラ・ドーム星まつりや西林寺照楓会、生け花教室生の発表会、旧来住家住宅などでお茶席を設けるなど、学んだことを地域のイベントで披露しています。

地域の方で支えられる教室

放課後子ども教室は、地域の皆さんが講師となって行う事業です。現在は87人が活躍。茶道教室のほかにも、本の読み聞かせや農作業体験、生け花、グラウンドゴルフなど、さまざまな教育資源を活用して取り組んでいます。子どもたちと接することで、地域の皆さんは生き生きと活動されています。

◆問合せ

生涯学習課(☎22-5996)

心のスケッチ

148

人権教育課コラム

こころの重なり

マスクは毎日のように新型コロナウイルスに関する現状や課題などを報じています。中でも、誹謗中傷などによる差別は大きな人権課題であり、早急に解決すべきものです。誹謗中傷は直接相手に言葉を投げかけたり、貼紙をしたり、ネット上に書き込んだりするなど、さまざまな方法で相手に届きます。しかし、元は人から発せられた「言葉」であることに変わりはありません。私が教育現場で担任をしていたとき、道徳の時間などを使って「あったか言葉」と「チクタク言葉」について学習したことがあります。あったか言葉とは、温かい言葉のこと。「言ってもらってうれしかった言葉は何ですか」という問いに児童は、「困ったときや泣いているときに『大丈夫?』と言ってもらった」と答えました。他に、「もう少しでできるよ」「よかったね」「がんばったね」「ありがとう」など、思いやりがこもった言葉がたくさん挙げられました。そのときの児童の顔は本当にうれしそうに輝いていたことを

今も覚えています。一方、チクタク言葉とは傷つく言葉のこと。「言われて嫌だった言葉は何ですか」と尋ねると、「うるさい」「ばか」「なんでできないの」など心が傷ついた言葉が挙げられました。嫌だったという発表を聞きながら、自分の学級経営の在り方を深く反省をしたこともはっきりと覚えています。「あったか言葉を増やそう、チクタク言葉はなくそう」と児童に呼び掛けて、学級の仲間づくりに力を注ぎました。

現在に目を移すと、SNS上の誹謗中傷は、あまりにもひどいものが並んでいます。その言葉は、人の生命さえ奪ってしまうほど深く傷つける凶器となっているのです。自分の体や心の痛みは強く感じても、他人の痛みには鈍感であるのが現実かもしれません。言葉を発する前に、「これはチクタクかな?あったかかな?」と考えてみることを勧めます。「たった一言が人の心を傷つける たった一言が人の心を温める」私はこの言葉を、いつも心に留めています。

市長からの手紙

西脇を元気に!!

91



西脇市長 片山 三三

善意が元気の源

現在、新型コロナウイルスワクチン集団接種を、旧西脇市民会館(旧市庁舎の一部)を受付・待機所)で実施しています。古い建物ですから階段が多い、手すりがない、高齢の方や車いすの方の移動には段差が支障となること、バリアフリーが不十分で心配する箇所がたくさんありました。ところが、集団接種の開始前にボランティアグループ「一心他助」の皆さんが手すりやスロープを設置してくださりました。また、会場の段差のことを建設担当の部長に話すと、翌日に



機械を使って段差を埋める工事を
行う市職員

は段差がほとんどなくなっていました。その日の夕方、職員が手持ちの材料で段差を埋め、自発的に雨風を防ぐテントの設置工事をしてくれました。日ごとに暑くなることを心配していると、市内に工場がある「霧のいけうち」さんがミスト扇風機を貸してください。また、「播州織工業協同組合」さんからは、接種を受ける方のために抗ウイルス加工を施した播州織のいすカバーを、また、「関西C.I.C.研究所」さんからは特殊洗浄済み手袋を寄附いただきました。会場のお医者さん、看護師さんをはじめ、スタッフ皆さんの丁寧な対応にも市民の方から神戸新聞のイイミミに投稿してください、たくさんの方から反響がありました。

皆さんの善意が元気の源になってワクチン接種が進んでいることに深く感謝申し上げます。この難局を、市民一丸となり乗り越えましょう。

